

《シラバスとは》

各教科の1年間の授業計画です。

① 教科の目標 ②学習内容 ③1年間の学習計画 ④評価の観点と方法

⑤家庭学習のしかた

の5点について書かれています。

シラバスを参考にすることで、1年間の授業の内容を見通すことができ生徒自身の中で学習の計画をつくりやすくなります。また授業の目的や到達目標を確認することで学習効果を高めることができます。さらに家庭での学習方法を参考にすることで、より効果的な自学自習を展開することが期待されます。“計画”なので年度の途中で変更になる場合もありますが、おおむね記載された計画にしたがって授業は進められます。

評価については「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から出します。

「知識・技能」については、知識及び技能の習得状況について評価をするとともに、他の教科の知識とも結びつけて活用できる概念的知識として評価します。

「思考・判断・表現」については、知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか、また仲間と協力しながら問題解決の糸口を見つける力など幅広くその能力を評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①『知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面』と②『その粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面』という二つの側面から評価します。

なお、昨年度より1学期中間試験を行わず、各教科ごとに単元テストをはじめパフォーマンステスト（理科など）、単元レポート作成（社会科など）、ステップアップトレーニングテスト（数学など）、スピーキングテストや音読テスト（外国語など）等、様々な確認テストを行い、評価評価に加味しています。

これらの取り組みはもちろん生徒自身に還元し、単元や題材のまとまりごとに自分の理解度をつかませ、理解度が低下する前に学びなおす機会となるよう教員、生徒がともに考える機会をつくります（学習対話）。